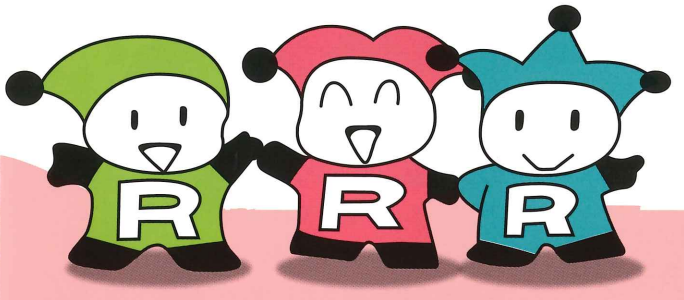
一般社団法人京都府産業廃棄物３Ｒ支援センター　ニュースレター

3R（スリーアール）のススメ。



第2号 春 2013

産業廃棄物3Rの技術開発・設備投資を応援します！

センターでは、京都府産業廃棄物税の税収を活用して、企業の産業廃棄物３Ｒ(発生抑制・再使用・再生利用)を応援するため、技術開発と設備投資に要する経費の一部を次のとおり助成しています。平成25年度の公募開始にご期待下さい。

御希望の方には、募集開始を御案内します。（詳しくは当センターまで）

京都府産業廃棄物発生抑制等促進事業費補助事業

事業名	1 産業廃棄物減量推進事業（研究、技術開発等補助事業）		2 産業廃棄物再資源化施設整備促進事業（リサイクル施設等整備補助事業）
対象事業	産業廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用 その他適正な処理の促進に係る研究、技術開発 又は産業廃棄物を使った商品開発を行う事業		産業廃棄物のリサイクル施設等を設置する事業
事業の実施形態	事業者が大学等研究機関と共同で行う事業	その他	事業者が単独で行う事業
補助率	補助対象経費の2／3以内	補助対象経費の1／2以内	補助対象経費の1／4以内
助成額	1件当たり総額　50万円以上　1,000万円以内		
公募期間	平成25年春、募集開始[予定]		
問合せ先	一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター 〒615-0801　京都府京都市右京区西京極豆田町2番地　京都工業会館内2階 URL▶http://www.kyoto-3rbiz.org/　E-mail▶info@kyoto-3rbiz.org		

※本事業の予算は京都府議会の議決をもって決定します。

廃棄物の削減に役立つ豆知識Q&A

産業廃棄物はどのくらいリサイクルされているの？

① 20%
② 50%
③ 80%

（答えは裏面をみてね。）

contents

シリーズ　京都のリサイクルを担う人々
京都の産業廃棄物中間処理業者を訪ねて

センター活動レポート　「廃棄物３R推進シンポジウム」開催しました！

シリーズ 京都のリサイクルを担う人々

京都の産業廃棄物中間処理業者を訪ねて

京都では160社(※)ほどの廃棄物中間処理業者が産業廃棄物の適正処理やリサイクルを行っています。(※京都市を含む京都府全域の中間処理業者数)
それぞれの処理業者は、京都府や京都市など行政から産業廃棄物処分業の許可を取得し、排出事業者から産業廃棄物の処理委託を受けて、日々その適正処理とリサイクルによる資源化に励んでいるところですが、その実態があまり排出事業者である企業の皆さんに伝わっていない、ということもまた事実ではないかと思います。
そこで、本センターでは、これら京都の中間処理業者の皆さんを訪問し、各社の処理やリサイクルの実態など調査し、皆さんにお伝えすることにしました。
中間処理業者の皆さんはもちろん一様ではなく、各社によって様々な特長や得意分野を持っています。これから毎回一社ずつその状況をご紹介し、廃棄物処理やリサイクルについて理解を深めていただければと考えています。

第1回目

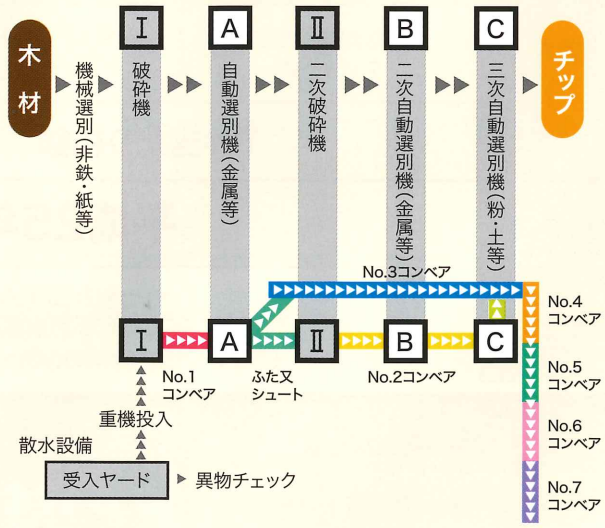
木材系廃棄物の総合リサイクルに挑む

伏見クリエイト(株)

今回訪れた「伏見クリエイト(株)」は、阪急西向日駅の西約2km、名神高速道路と国道171号線が交差する付近、周囲は工場と田畑が広がる地域に立地しています。
当初(昭和27年)「平山商店」として廃棄物の処理を生業とする事業所として創業し、当時は混合廃棄物など多様な廃棄物を受け入れていましたが、平成4年の廃棄物処理法の改正(処理業、処理施設の届出制が許可制になるなど大幅な法改正がなされた)を契機に、事業内容を見直し・検討し、廃木材など木質系廃棄物の処理・リサイクルに事業の重点を置くように転換しました。
平成6年には法人化し社名も「伏見クリエイト」と改名。この命名には「伏見からより良い環境を創造(クリエイト)していきたい」という思いを込めているとのことです。木質系廃棄物のオールマイティの会社に事業を転換していこうという方針のもと、平成13年には京都では初めての木材リサイクルプラントを完成させ、木材チップの加工再生利用に向けて事業活動を展開しています。

事業所を訪れると、文盛厚取締役が工場を案内してくれました。ここでは京都市の許可を受け廃棄物の破砕施設(ハンマー式破砕機)を導入、木質系廃棄物を破砕・選別、加工することにより、木材チップの製品化までを行っています。
木材チップは、廃木材の種類(柱・梁、パレット・ベニヤ、原木、枝・葉、抜根等)に応じて分類され、それぞれパルプ原料、再生ボード、ボイラー燃料、堆肥等の製品として製紙会社や建設資材会社などに出荷、販売されています。(木質系廃棄物が主要だが、廃棄物処分業は8品目の許可を受けており、廃プラ、紙くずなども受け入れている。)

木材再生システム(フルオートメーション)



右ページへ続く ↗

② 環境省のデータによると、産業廃棄物のリサイクル率は53%(H21)であり、特に金属くず、がれき類、動物ふん尿は96%という高いリサイクル率となっています。残りの43%は脱水や焼却などにより減量化されており、最終処分場に埋め立てられている量は全体のわずか3%に過ぎません。廃棄物処理業は今やリサイクル業、資源再生業と言っても過言ではありませんね。

事務所で文盛保代表取締役らにお話を聞きました。

「事業所の特長は。」

▶「なんといっても『木材リサイクル』に総合的に取り組んでいること。当社は家屋解体現場の廃木材から土地造成の原木、枝葉、河川工事や造園工事の枯草、雑木、刈草、剪定枝など、木質系ならあらゆる廃棄物を受け入れています。」

これは、伏見クリエイトが一般廃棄物と産業廃棄物の両方の処理業許可（一廃は京都市許可）を取得し木質系なら一廃・産廃を問わず受け入れ可能であること、さらに製品となる木材チップも、その質に応じて製紙工場、建設資材工場、畜産農家等多様なリサイクル先を確保していることが、このような多様な木質系廃棄物の受け入れを可能にしているようです。

環境配慮の取り組みについては、環境認証のKESステップ1を2005年に取得し、また国が導入を促進している電子マニフェストは収集運搬業、処分業とも導入済みです。さらに財務諸表や処分費についても昨年からホームページに載せるなど、事業の透明性、見える化も進めているとのことです。

木くずの種類に応じチップ（古材チップ、生木チップ、燃料チップ）のヤードは区分けされ、それぞれパルプ原料、ボード原料、燃料チップなどとして販売される。年間1万トン程度の木質系廃棄物を処理。

「今後の事業の展開についてお考えを聞かせて下さい。」

▶「木質系廃棄物のリサイクルは弊社の強みでありさらに徹底していきます。廃木材のリサイクルを通じ持続可能な社会づくりに貢献することがわが社の方針です。その上で廃プラ等のリサイクルについても今以上に取り組みを強めて行きたいですね。」

ボード原料としてチップ化されているヤード

「排出事業者に望むことがあれば一言。」

▶「何と言っても異物除去の徹底をお願いしたいですね。例えば建築解体物には電線やアルミ材が混ざることがあって、これがリサイクル作業を阻害します。リサイクルの場合、廃棄物は廃棄物であると同時に製品の原料でもあるので、品質向上のためには異物除去は必須になります。」

昨今の経済情勢の冷え込みにより廃棄物処理業も苦しい状況は続いているとのことですが、昨年7月から始まった固定価格買取制度でもリサイクル木材燃焼発電の調達価格が設定され、木質系廃棄物は再生可能エネルギーの観点からも注目が高まっています。剪定枝などの利活用は京都市が進めている一般廃棄物減量の取り組みにも貢献していますし、そもそも自然の恵みが生み出す木材は最も典型的なバイオマス資源でもあり、木質系廃棄物のリサイクルの重要性は、今後益々大きくなるでしょう。

文盛保代表取締役(左から)、文盛厚取締役、平山清司専務取締役のみなさんにお話を伺った。

一般社団法人京都府産業廃棄物３Ｒ支援センターは

産業廃棄物の３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）を推進していくため、京都府内の産業界、処理業界、大学等の研究機関、各種団体、行政機関に賛同いただき、京都府の産業廃棄物税を財源として設立されました。
本センターは、産業廃棄物の３Ｒに取り組んでおられる企業の皆さまを応援するため、様々な支援メニューを用意しています。
廃棄物ゼロエミッションの取り組みは、廃棄物の減量にとどまらず、コスト削減など企業経営の合理化にも繋がるものです。
本センターが産業廃棄物の３Ｒを支援する拠点として広く皆さまに活用され、今後の循環型社会を支える新たな産業システムの創出、持続可能な社会の構築に貢献できることを願っています。

３R支援センターの主な事業

ゼロエミッションアドバイザー派遣事業（無料）

排出事業者からの廃棄物の減量・リサイクル、環境マネジメントに係る相談に対して、専門知識を有するアドバイザーが助言等を行い、ゼロエミッションの取り組みを支援します。
問合せは当センター又はNPO法人KES環境機構へ。

産業廃棄物３R情報等提供事業（無料）

廃棄物処理やリサイクル業者情報など、産業廃棄物の３Rを推進する上で欠かせない情報を提供します。
問合せは当センター又は（社）京都府産業廃棄物協会へ。

リサイクル技術開発・施設整備補助事業

産業廃棄物の３R研究開発や技術開発、施設整備に対して補助金を交付します（25年春、募集開始予定）。
問合せは当センターへ。

３R人材育成等支援事業

セミナーや講習会の開催、企業研修会に対する講師派遣をします。
問合せは当センターへ。

センター活動レポート

「廃棄物3R推進シンポジウム」開催しました！

乙訓・洛西地区
日時：平成25年2月22日（金）
場所：ホテル京都エミナース　平安の間

山城・宇治地区
日時：平成25年2月25日（月）
場所：宇治商工会議所　大会議室

廃棄物の3Rに係る課題や情報の共有化を図るため、「廃棄物3R推進シンポジウム」が乙訓・洛西地区と山城・宇治地区において開催されました。

まず基調講演として、両会場を通じて京都大学環境科学センターの浅利美鈴助教から「残されたごみ問題~アラカルト~」と題し講演がありました。講演では、家庭から出てくるごみを集め、どういう性状を持っているか調べる「ごみ調査」を通して、ごみの変遷や食品ごみの特徴についてお話があり、また食べ残しの問題についても自給率のことを考えると非常に深刻な状況であるとの認識が示されました。また３Ｒについて、現代は大量生産、大量消費、大量廃棄の時代であるが、付加価値の高いものを作り資源とエネルギー量を出来るだけ減らす努力が必要であり、リサイクルよりリデュース、リユースに重点を置いた知恵を絞り出すことが重要であると述べられました。

講演する浅利氏

次に乙訓・洛西地区の事例発表では、㈱村田製作所（長岡京市）の西村氏から発表があり、2004年には国内21事業所においてゼロエミッション（リサイクル率100%）を達成し、その後も廃棄物の種類・量を徹底的に調査し、分別することで「廃棄物」を「有価物」とする取り組みをしてきたとの説明がありました。しかし、「廃棄物」+「有価物」＝【不要物】の量は減っておらず、今後の課題として、製品設計の段階から不要物を削減していく工夫がさらに必要であるとのお話がありました。

また山城・宇治地区の事例発表では、コカ・コーラウエストプロダクツ(株)京都工場（久御山町）の永井氏は、飲料容器の軽量化等により「Reduce減らす！」取り組みを進めていること、しかし一方でリユース壜がワン・ウェイ容器に変化することにより「Reuse繰り返し使う！」取り組みが停滞し課題であるとの話がありました。また京都工場では、コーヒー残さの有機肥料化、ガラスびんのカレット化、廃プラの再生ペットボトル化等によりリサイクル率100%を達成しており、特にスチール、アルミ缶は圧縮減容機を導入し、輸送効率の向上を図っているなど説明されました。

さらに処分業者の立場から、(株)京都環境保全公社（伏見区）の山下氏から発表があり、「不要物」を徹底して分別・選別することが不可欠であり、分別後の優先順位は有価物＞リサイクル＞最終処分、また有価物も混ぜればゴミとなるので混ぜないことが大切との説明がありました。さらに処理・処分事業以外に「資源の出前講座」を行い排出事業者に分別方法などを提案する活動も行っているとのことでした。最後に不要物を有価物・リサイクルしていくためには、排出事業者と処理業者がパートナーとして互いに協力しあうことが大切とのお話がありました。

最後に支援センターの新井センター長から、「排出事業者のため３Ｒ対策支援メニュー」と題し講演があり、ゼロエミッションアドバイザー派遣や３Ｒ情報提供、補助事業など、センターの事業内容について説明があり、さらに、３Ｒのポイントや処理委託のポイント等のわかりやすい冊子を利用しながら廃棄物の減量を促進いただきたい旨述べられました。

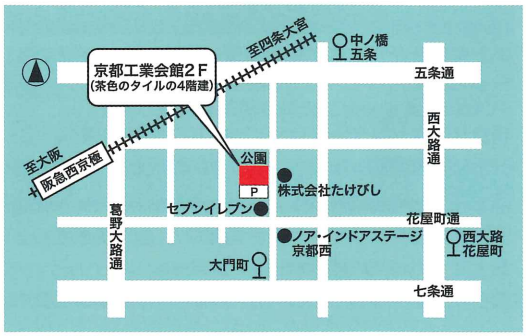
事務局より

桜がほころぶ春、新年度が始まります。当センターでも3Rの技術開発・設備投資に対する25年度の補助を今春から開始します。
産業廃棄物の3Rに関する研究や設備導入をお考えの方は、積極的に当センターにお問合せください。
また、今回から「京都のリサイクルを担う人々」と題し、京都の中間処理業者をシリーズで紹介していくこととしました。ご期待下さい。

一般社団法人京都府産業廃棄物３Ｒ支援センター　ニュースレター
「３Ｒのススメ。」第2号

2013年3月発行（年４回発行）

発　　行：一般社団法人京都府産業廃棄物３Ｒ支援センター
住　　所：〒615-0801　京都市右京区西京極豆田町２番地
京都工業会館内２階
ＴＥＬ：075-322-0530　　ＦＡＸ：075-322-0529
Ｅ-mail：info@kyoto-3rbiz.org
ＵＲＬ：http://www.kyoto-3rbiz.org/



【構成団体】京都商工会議所・京都府中小企業団体中央会・一般社団法人長田野工業センター・公益社団法人京都工業会
社団法人京都府産業廃棄物協会・特定非営利活動法人KES環境機構・京都府・京都市